

報告；院内患者会について

1,出張患者会

2,医療現場の関心

～ナースの意識調査から

2009.12.5 HosPAC総会

東海大学病院 移植コーディネーター

三枝真理

従来の
スタイル



院内患者会 「TOMORROW」

1997年発足 病院内の会議室で実施
ホスト5名 平均ゲスト数=8.8名 (1-16名)

患者会に出向けない
患者さんもいます



出張患者会

ベッドサイドでの患者会

新たな
スタイル



経緯

●対象：

白血病治療のため入院中の男性A氏

- ✓化学療法に伴う合併症から入院が長期化
- ✓治療が進行できず病状は慢性化
- ✓視力を失うというアクシデント



- 前進のない長い入院生活
- 感覚器（目）の障害で刺激・コミュニケーションが更に↓↓
- 自分でできることも↓↓
- 目標がみつけれられない
- 意欲がわからない（リハビリ・外出外泊・会話）
- 痩せ・失明・寝たきり→随分変わってしまった自分・・・
友達とは会いたくない

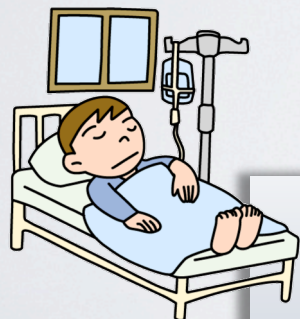
経緯

- 両親との相談：

「息子の闘病生活に潤いを与えたい」

「視覚とは異なる形で何か刺激を与えたい」

- ✓ 患者であることを忘れ、楽しい時間を過ごさせたい
- ✓ 話し相手が欲しい



院内に
適切なサポートなし

ベットサイドでの患者会
「出張患者会」企画



当日

- 訪問前面談：（両親より）

これまでのA氏の状況や家族の思い、今回の試みに対する期待・不安（A氏の性格上、これまで病棟ナースや主治医、家族と進んで会話することが少なかった）

- ベットサイド(個室)に訪問。約45分間の座談会（30分の予定→話が盛り上がり15分延長）→名残惜しい別れの挨拶

- 訪問後面談：（メンバーより）

「A氏と楽しく談話した」

「患者となることで社会と隔絶され、身体への自信喪失と共に、精神的にも思うようにならなくなることがある。治療後5年経ち、元気にみえる私も、まだ十分な社会復帰ができてはいえず、時間がかかるもの」

A氏の変化

両親

- 珍しく声を上げて笑い、昨日の事を話したので驚いた。
- 従来コミュニケーション下手で沈黙も多いが、久々によく喋ったようだ。以後、家族内でもコミュニケーションが増えた。本当は話をしたかった、聞いて欲しかったのかもしれない。
- 「もう一度会いたい」と話している。入院後、息子が人に会いたいと求めたことはなかった。
- 病院の中で、息子は「白血病患者」であり、面会者も腫れ物に触るようだった。お二人との談話は、その内容・量・勢いが普段（家族や医療スタッフ）と異なり刺激になったようだ。また、「患者」に向けてではなく、同じ目線での談話だったことが息子の心を開いたように思う。

両親ご自身の気付き

両親

- 状況が前進しないことに不安や焦りがあったが、同様の患者も多いことを知り安心した。
- 息子に「前向きな闘病生活」を要求しすぎ、負担をかけていたかもしれない

得られた成果

両親

- ✓ 新たな出会いと会話（刺激）
- ✓ 同じ目線での談話



- 笑い声
- 前向きな意志

という変化の実感

満足(^_^)

A氏の変化

- 外泊を促した際、外出/外泊に後ろ向きであったA氏が、「今しかないかも」と前向きな返答をした。
- 会話が増えた。
- リハビリへの意欲がみられた。

A氏家族の変化

- 家族間、家族と医療スタッフ間のコミュニケーションが促進した。
- 付き添い時間が減少した。

今後A氏に「出張患者会」を勧めたい？

- ✓勧めたい=4名
- ✓どちらともいえない=6名

Y:

A氏や家族が希望するのなら勧めたい(3)

A氏の精神的な支えになったと思う(2)

患者や家族によい刺激になる

病棟Ns、家族以外と触れあえる機会はあったほうが良い

A氏の世界が広がり自己肯定が高まる機会になればよい

N:

A氏や家族の行動にあまり変化が見られない(効果がない)

患者会に対する現場の関心 ～病棟ナースアンケート調査

病棟ナース
31名

●対象：病棟ナース 52名

■A病棟=血液・婦人科

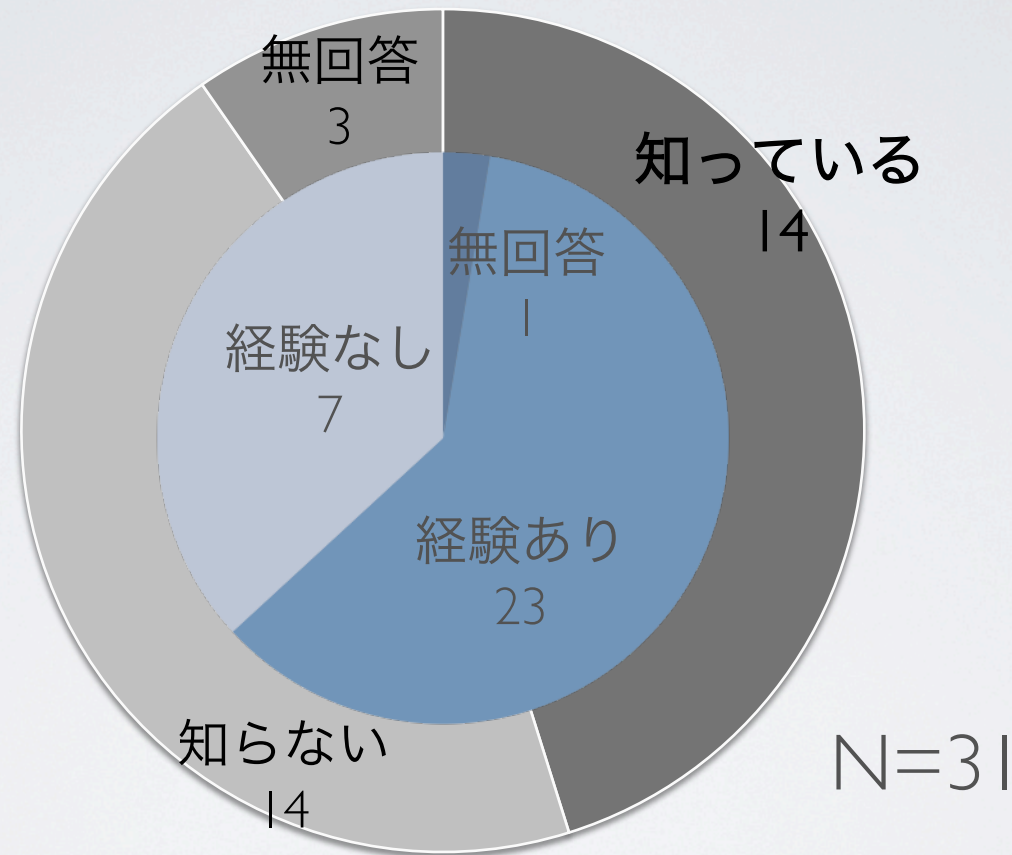
■B病棟=血液・乳腺内分泌科+移植病棟

●回収率：60%（31名）

●期間：2009.11.4 - 11.9

TOMORROWをしっている？ 移植患者受持経験は？

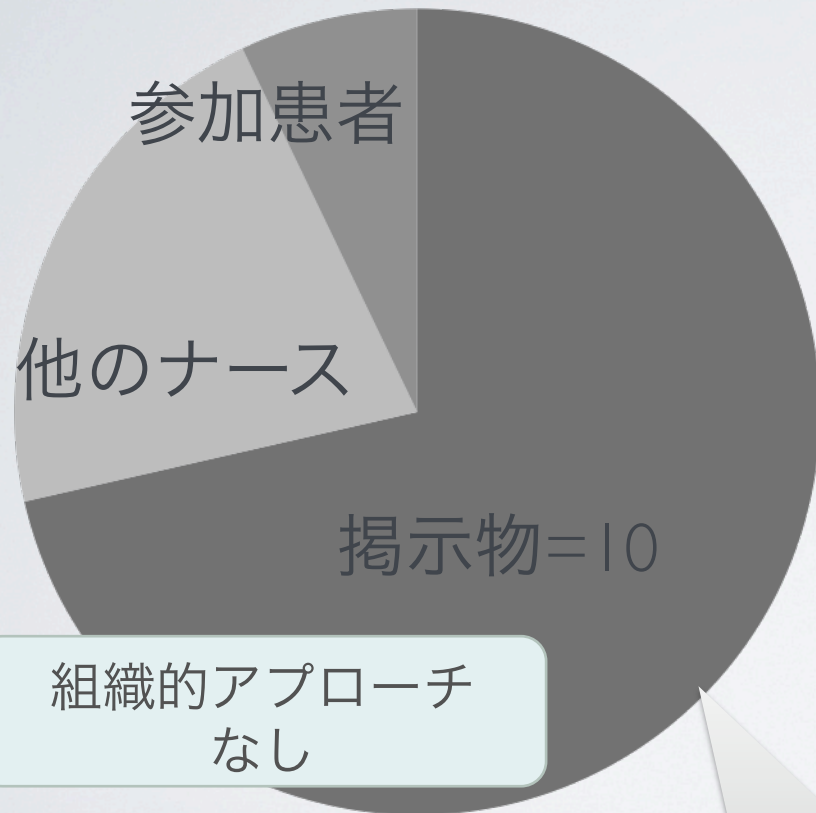
病棟ナース
31名



- 約半数しか知らない
- そのほとんどは移植患者担当経験あり

病棟ナース
14 / 31名

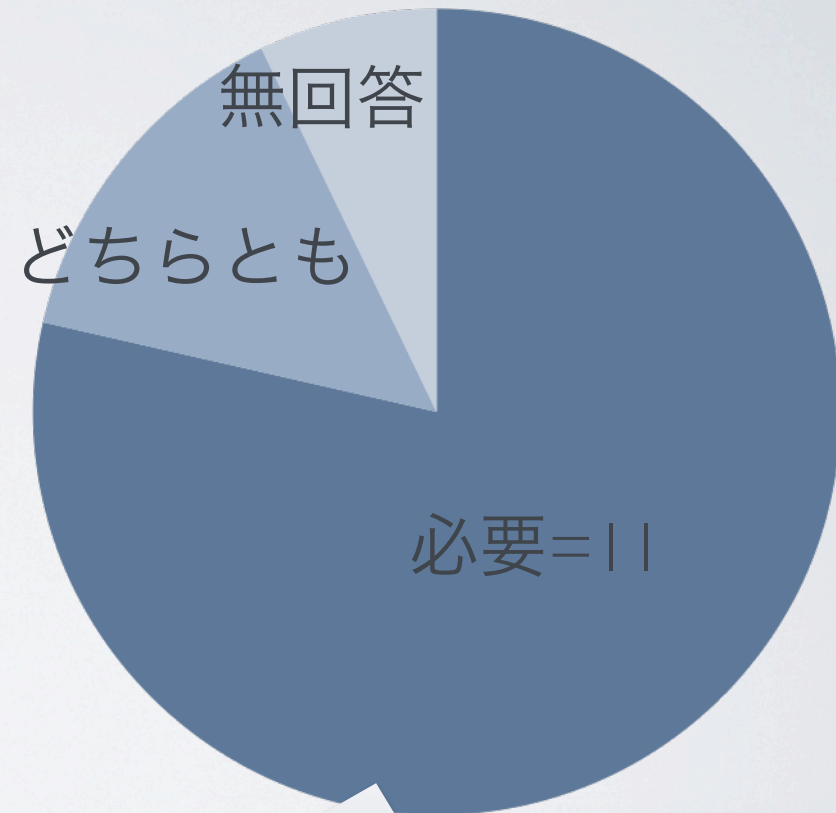
どのようにして知った？



組織的アプローチ
なし

チラシ掲示は
効果がありそう

活動は必要？



「必要」
B病棟ナース全員

病棟ナース
14 / 31名

移植患者を前にしたあなたの行動は？

TOMORROWの開催日・場所を調べ参加を促す

(複数・選択)

総合相談室 (MSW)へ連絡

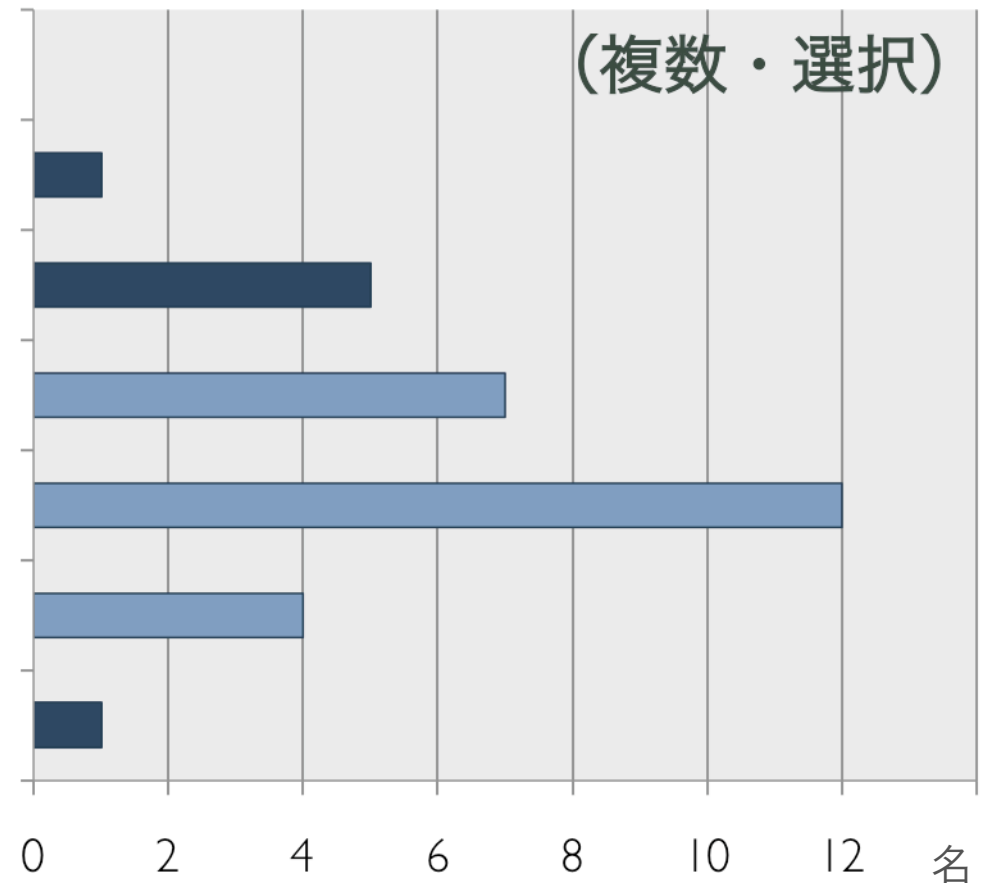
移植コーディネーターに連絡・相談

移植経験あるナースに相談・患者面会依頼

情報提供など最善と思われるケアを自分で実施

できる事わからず、病棟の先輩・師長に相談

主治医や移植Coで十分、特になにもしない

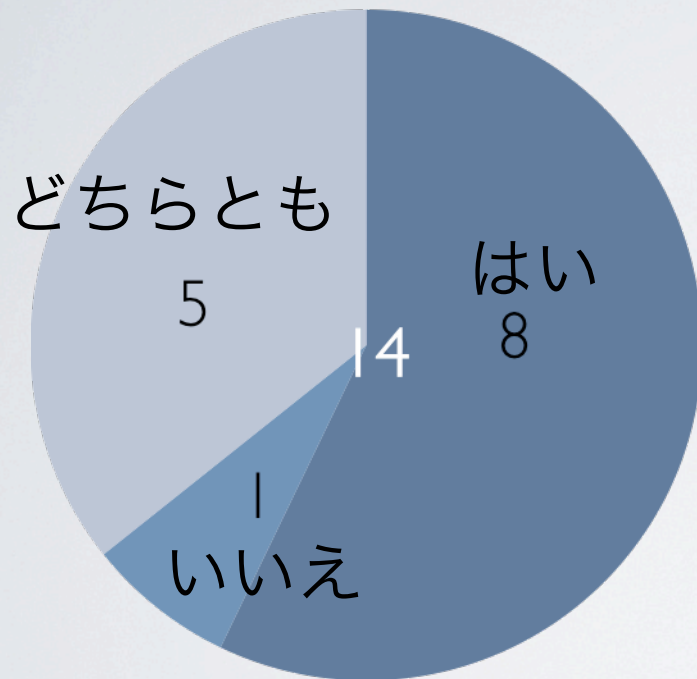


□責任感の強い病棟ナースは自力でケアしたい！？

病棟ナース
14 / 31名

TOMORROW参加経験者=0

参加してみたい？



理由(複数・選択)

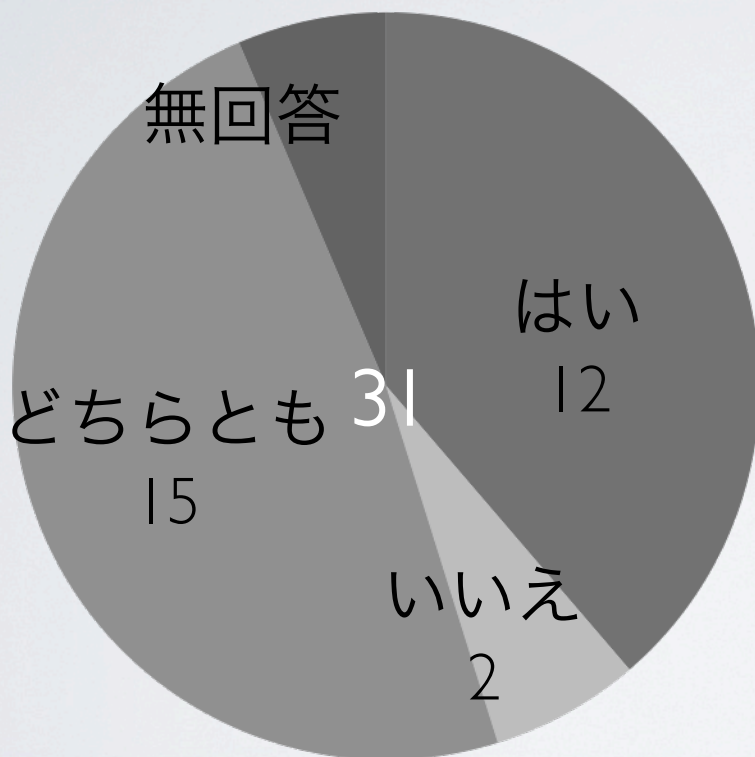
患者や家族の素直な声を聞きたい(11)
担当患者が参加する時は参加したい(1)
勤務時間内なら参加したい(3)
勤務が忙しく不可能(1)
患者同士で話ができるよう、
医療スタッフは参加しない方がよい(2)

□ 「はい」 B病棟ナースは全員

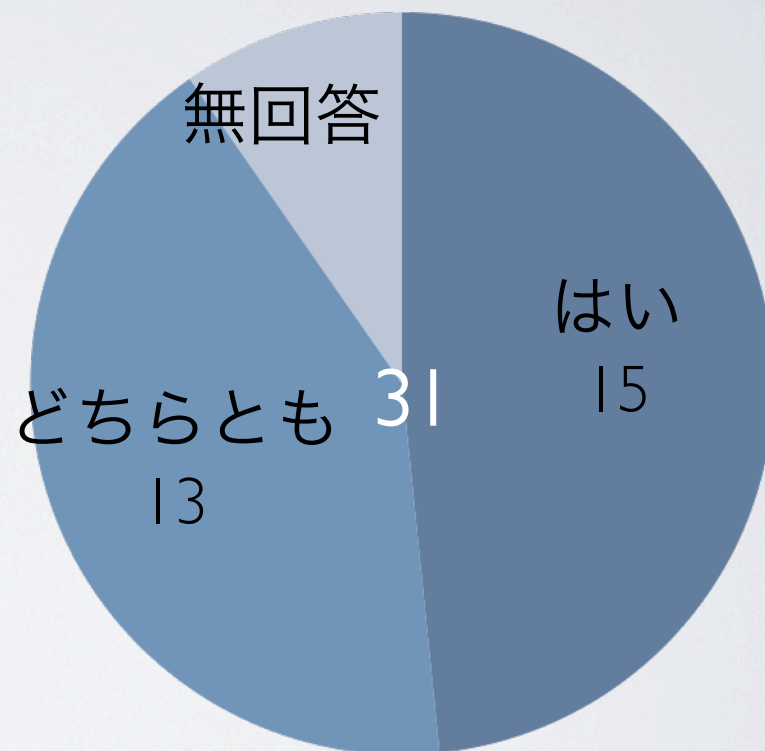
出張患者会について

病棟ナース
31名

A氏以外に
必要な患者がいる？



利用してみたい？



□A氏への試みを知ったナースから関心が得られた？

外部サポート利用時の問題

病棟ナース
31名

- 院内に相談窓口がない、利用方法がわからない
- 現場ナースの知識・情報不足
(活動内容が不明・面談内容や患者の反応が把握できない)
- 患者の闘病時期による
- 調整・手続きに時間や労力を多く必要とする
- ナース個人で外部サポートスタッフとコンタクト取れない
- 主治医、サポートスタッフと円滑な連携がとれるか？
- サポート内容・スタッフ知らない→患者への悪影響が不安
- トラブル発生時の対応が難しい
- 個人情報保護に関する不安

- 相談窓口がない（患者にもスタッフにも）
- プライバシー侵害やトラブル発生時の責任
- 連携の難しさ

外部サポート利用時に必要な準備

	患者	医療者 (医師・ナース)	サポーター
情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・受けられるサポートと、サポーターについて (どんな人が、何を支援してくれるのか?) 	<ul style="list-style-type: none"> ・患者さんの希望・意思 ・受けられるサポートとサポーターについて (どんな人が、何を支援してくれるのか?) 	<ul style="list-style-type: none"> ・患者さんの希望 ・患者さんの状況 (体調・性格) ・病院で協力できること
状況確認	<ul style="list-style-type: none"> ・実施可能か? (体調～前日・当日も含む) ・どんなサポートを必要としているか? ・サポーターに伝えて良いこと (個人情報保護) ・意思確認 (同意) ・場所・日時 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施可能か? (治療スケジュールや体調、外部サポート導入の許可) 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施可能か? ・場所・日時調整 ・人選 <div data-bbox="1675 1086 1998 1238" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 心理・社会的な負担 </div>

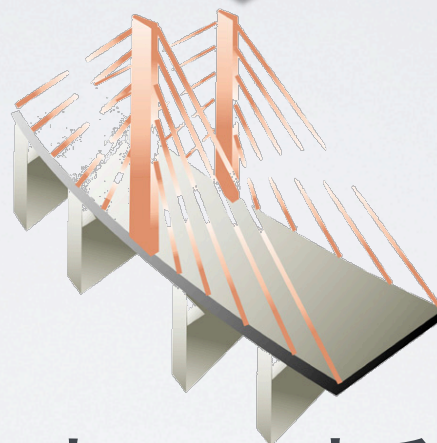
□外部のサポート / 患者状況の特殊性・個別性

医療スタッフ



支援を必要とする
患者

Happy



架け橋



サポーター

橋渡し役には誰がなれる？

担当ナース

□患者をよく知る担当ナース（認定・専門ナースがbetter）

- どんなサポートをしているのか情報提供して欲しい
- 病棟ナースは外部との橋渡しに関わらず、調整も難しい
- 入院中、必要とされるケースが少ない。ケースが増えるなら専門部署を作るのもよいが、入院期間短縮を図る中、院内での実施には矛盾も感じる

- ・患者・ソーシャルサポートの理解不足
- ・病棟を離れた「調整」「相談」が困難

□MSW・総合相談室

- 患者会の把握をしていない。患者にアナウンスできない
- 患者が、ソーシャルサポートの相談をできていない

- ・「総合相談室」の体制不備
- ・MSWにつなげられるケア不足→担当ナースの問題

TOMORROWメンバーより



- 医師が理解してくれているのは、外来診察時に話をするのでわかっていました。医師が理解している=ナースにも理解されていると思っていたので、活動が知られていないことに驚いた。
- 医療スタッフの参加を求めているわけでもないが、ナースの方には我々の活動内容を把握し、認めていただけると嬉しい。
- ポスター掲示だけでは、新規患者にとって「参加」は敷井が高い？ 患者の身近な存在であるナースが、「参加してみたら？」と背中を押してくれれば、参加しやすくなると思う。

要望

TOMORROWより



- 総合受付で、間違っって案内されてきた患者がいた。いつ、どこで、どんな患者会が開催されているのか、病院内（総合受付などの案内所）で把握して欲しい。
- 患者会の一覧掲示をしたらどうか？対象の患者会があると知ったら、患者も参加しやすくなる。
- 「総合相談室」が窓口：場所がわかりにくく、ドアも閉まっており入りにくい。もっとオープンな場所で、気楽に調べ、質問できる場所に、患者会の案内があると良い
- HPへの掲載

病棟ナースより



- どのような患者会があるのか・利用方法がわからない。スタッフが情報収集、相談できる窓口が欲しい

がん対策基本法（H19施行）

- 「がん対策推進基本計画」

総合的かつ計画的ながん対策推進を図るため制定

- 「都道府県がん対策推進計画」

「がん対策推進基本計画」を基に、各都道府県におけるがん医療の現状等を踏まえ、策定することが求められている

都道府県がん対策推進計画（神奈川県）

地域がん医療のネットワーク作り・・・現状と課題

イ、地域におけるがん患者支援の必要性

●がんは今日では約半分が治る病気ですが、根強い恐怖があり、治った後も、再発や転移の不安が長引き、患者やその家族は、精神的に不安定な状態に陥りがち

●がん診療連携拠点病院には「相談支援センター」が設置され、看護師やメディカルソーシャルワーカーなどが、様々な相談に応じている

●がん患者の会やがん患者を支援するNPO団体などでは、がん患者に対する相談やサポートグループによるカウンセリングを実施しているところもあるが、まだ数が限られている

◆がん診療連携拠点病院の相談支援機能の強化

◆身近な場所で、精神、社会生活、家庭生活面を含めた、不安や悩みを解消し、支援するしくみづくり

都道府県がん対策推進計画（神奈川県）

地域がん医療のネットワーク作り・・・取り組みを進める施策

②地域におけるがん患者支援のしくみづくり

ア、がん患者支援のしくみづくり

がん患者を精神的にもサポートするため、地域の医療機関関係団体などが一体となって、患者家族への支援やこれを支えるボランティアのあり方、相談手法、情報提供のしくみなどを検討し、地域におけるがん患者支援のしくみづくりを進めます。

■コラム：ピアカウンセリング

がん患者や家族が抱く、がんに対する不安や悩みを解消するため、がん経験者が相談員となり、自らの体験を生かしたアドバイスをする取り組みが始められています。

□患者会の必要性

□病院（医療スタッフ含む）と患者会が連携できる仕組み作りが必要



「がん拠点病院として！」

TOMORROWメンバーより

これまで参加者0だったこともあるが、メンバー同士での談話も自分たちの力になるので問題ない。

患者を迎えることで初心に戻れる。治療で大変だったころを思いだし、「今」抱えている問題が小さなものに思え、励ましになる。移植したこと、移植後の現在に満足できる。



ありがとうございました